大豆技術情報　第4号

令 和 ３ 年 １ ０ 月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

まもなく大豆の収穫時期です。大きな雑草を抜き取り、ほ場ごとに成熟状況を確認し、適期内の収穫に努めましょう。

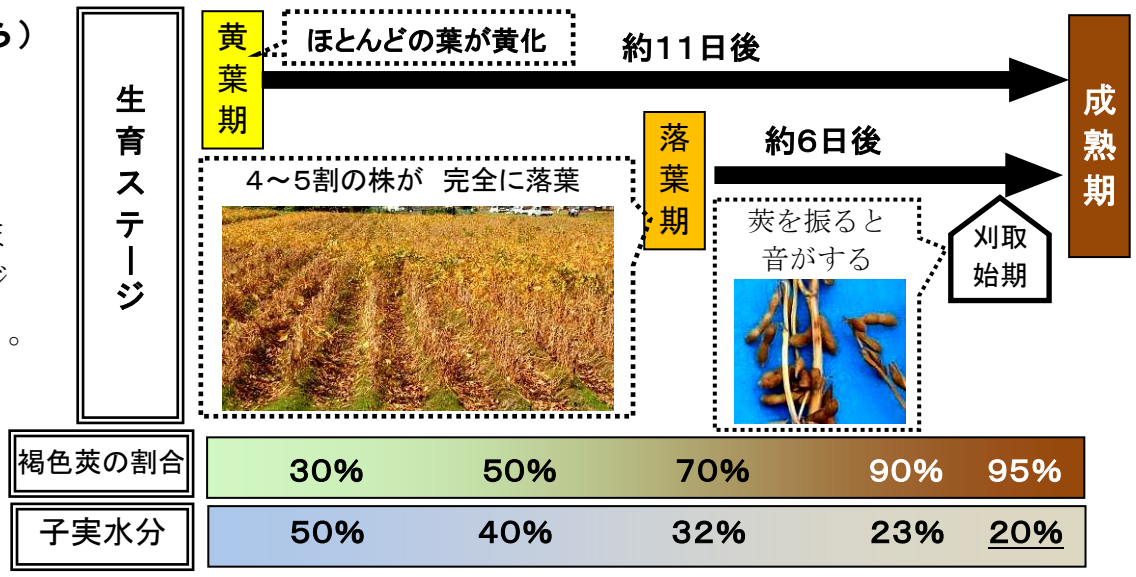
１．えんれいのそらの刈取始期

・下図を参考にほ場ごとの**葉の黄化や落葉状況を確認**して、成熟期の目安をつけ、作業計画を立てましょう。
・莢の熟色を確認し、**90%以上の莢が褐色になった頃（子実水分22%以下）から刈り始め**ましょう。刈り遅れると、しわ粒や腐敗粒の発生要因になります。茎の色みが若干残っていても、莢の色を優先させて収穫してください。

刈取始期の目安（えんれいのそら）

刈取始期
１０月１２日頃～

●ほ場によって登熟状況が異なりますので、ほ場ごとに生育ステージを確認して刈取を判断しましょう。
※ **“シュウレイ”は“えんれいのそら”より4日程度遅くなります。**



２．収 穫 作 業

・イヌホオズキ等の大型雑草や青立ち株は汚損粒発生の原因となります。また、帰化アサガオ類は大豆に絡みつくと、収穫作業が不可能となる場合があります。**収穫前に雑草や青立ち株を取り除きましょう。**
・収穫時刻は午前 10 時～午後4時頃を目安とし、**莢が乾いていることを確認**してから行いましょう
・収穫時に土をかき込まないよう**『刈取り高さ』は地際から 10 cm程度**に調整しましょう。
・コンバインの**『作業速度』は 0.4～0.8m/秒程度**としましょう。大豆の生育量が大きい場合は、速度を落とすなど、コンバインのつまりを防ぎましょう。

帰化アサガオ類のほ場への侵入が見られたら、種子を落とさないように抜き取りましょう。

３．乾 燥・調 製

・急激な乾燥は、しわ粒や皮切れ粒の発生原因となります。乾燥機の**送風温度を「気温＋5℃以内」、平均毎時乾減率は0.3%/時以下**とし、子実水分14%に仕上げましょう。
・調製は適正な流量を守り、被害粒の除去に努めましょう。

４．次年度対策

①排水対策

・次年度の作付予定地には、**年内に額縁排水溝を設置**しましょう。
・**心土破砕や弾丸暗渠の実施**により、排水性の改善を行いましょう（右写真）。

②土づくり

・地力の低下は、収量低迷やしわ粒の発生等の大きな要因となります。**発酵鶏ふん等の堆肥の施用や緑肥作物（ヘアリーベッチ等）の作付け・すき込み**により、収量や品質の向上を図りましょう。

写真　額縁排水溝に連結した暗渠

寒江大豆乾燥調製施設の荷受けは、10月11日（月）から行います。

～秋の農作業安全運動実施中（10 月 20 日まで）～